

10月4日(火)午後3時発表の予定に
つきそれまで取り扱い注意

2022年度デミング賞各賞の受賞者について

2022年10月4日

デミング賞委員会(委員長 十倉 雅和)は、10月4日(火)14時から経団連会館(東京・大手町)において委員会を開催し、2022年度デミング賞各賞の受賞者を決定しました。

デミング賞委員会
委員長 十倉 雅和

本件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

デミング賞委員会

(一般財団法人 日本科学技術連盟内)

セクレタリー：中島 なかじま のりひこ 宣彦

事務局：高取 たかとり けん 健

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 1-2-1

TEL：03-5378-1212(デミング賞委員会事務局)

携 帯：090-2470-4858(10/4、10/5の連絡先)

FAX：03-5378-1227

E-MAIL：demingprize@juse.or.jp

URL：<http://www.juse.or.jp/deming/> (日)

http://www.juse.or.jp/deming_en/ (英)

2022年度(令和4年度) デミング賞 各賞受賞者

2022年度(令和4年度)のデミング賞各賞の審査は、デミング賞委員会の各委員会において本年3月から9月にかけて行われてまいりましたが、本年10月4日開催のデミング賞委員会において以下のとおり受賞組織ならびに受賞者が決定いたしました。

新型コロナウイルス感染症予防対策の観点から、本年度授賞式は、11月14日(月)16時40分から東京・大手町の経団連会館において、受賞者ならびに授与関係者のみで行い、授賞式の様子をライブ配信することで広くご視聴いただく形式とします。

授賞式に引き続き、例年行われていた受賞記念祝賀会は開催を見合わせます。

また、授賞式に先立って、11月14日(月)13時00分から、受賞者による受賞報告講演会が同会場で行われます。

受賞者

1. デミング賞本賞

むねちか まさひこ
棟近 雅彦 氏

早稲田大学 理工学術院 教授

創造理工学部経営システム工学科 創造理工学研究科経営デザイン専攻

(1959年生、63歳)

2. デミング賞普及・推進功労賞(海外)

カネシュ ラクシュミナラヤン
Mr. Ganesh Lakshminarayan

Chairman, Rane Group

(1954年生、68歳)

3. デミング賞

株式会社麻生 飯塚病院

ますもと あきひで
(院長 増本 陽秀 氏)

アポロ タイヤ リミテッド チェンナイ プラント
Apollo Tyres Limited, Chennai Plant

シー トーマス マシュー
(Mr. C Thomas Mathew, Unit Head)

キャタラー ムシャク キシャカン ホ カ ギユウゲンコウシ
科特拉(無錫)汽車環保科技有限公司

おかざき ただあき
(総経理 岡崎 忠明 氏)

受賞者参考事項

1. 2022 年度デミング賞本賞

むねちか まさひこ
棟近 雅彦 氏

早稲田大学 理工学術院 教授

創造理工学部経営システム工学科 創造理工学研究科経営デザイン専攻

(1959年生, 63歳)

[受賞理由]

棟近雅彦氏は、1987年東京大学大学院工学系研究科を修了後、東京大学助手、早稲田大学理工学部工業経営学科講師・助教授を経て、1999年同創造理工学部経営システム工学科教授に就任され、今日に至っている。この間に同氏は、多くの若手研究者・実践者を育成するとともに、日本品質管理学会長、日本適合性認定協会技術委員会委員長、ISO/TC176（品質マネジメントシステム）日本代表、日本規格協会品質管理と標準化セミナー学長等の要職を歴任し、学会・社会活動を通じてTQMの発展に貢献した。特に、医療分野の実践的品質マネジメントモデルの研究開発・その導入に関わる多くの病院との共同研究活動を通じて、わが国医療組織の品質・安全能力向上に多大な貢献をするとともに、ISOマネジメントシステム規格改訂や認証制度の進化についてもリーダーシップを発揮し、これらの活動を通じて多方面に及ぶ次世代TQMの担い手を数多く育成した。

2. 2022 年度デミング賞普及・推進功労賞(海外)

ガネシュ ラクシュミナラヤン
Mr. Ganesh Lakshminarayan

Chairman, Rane Group

(1954年生、68歳)

[受賞理由]

ガネシュ・ラクシュミナラヤン氏はインドのマドラス大学を卒業後1978年に自動車部品メーカーのラネ・エンジンバルブ社に入社し、現場作業・管理に従事した。1990年には同社社長に就任し、その後2007年から現在までラネ・グループの会長としてグループ企業の成長を牽引している。ラネ・グループはステアリングシステム、サスペンションなどの主力商品を有し、インドの有力な自動車部品企業である。ガネシュ氏は90年代から自らが率先し、日本的TQMの導入・推進を進め、サプライチェーンの現場力強化による顧客満足度の向上、新製品開発の共創活動などで顧客価値を創出し、その結果、同グループの現在の売上高は同氏の会長就任時比約4倍に増加した。さらにグループ傘下の5社がデミング賞、3社がデミング賞大賞を受賞しており、同氏は自らの企業経営において日本のTQMの有効性の実証と国際的な評価を高めることに貢献した。

3. 2022 年度デミング賞

株式会社麻生 飯塚病院

代表者名：増本 陽秀 氏 (院長)
所在地：福岡県飯塚市芳雄町3番83号
TEL：0948-29-7039
事業内容：病院（医療と医療サービス）
売上高：354億400万円（2022年3月期）
従業員数：2,688名

[受賞理由]

同組織は、1,048床、44診療科を備え、筑豊地域約40万人の住民に急性期医療を提供している。従業員数は2,688名、売上高は354億400万円（2022年3月期）である。

厳しい事業環境の中、地域から期待される役割を果たし続けるために、30年に渡

って TQM に取り組んできたが、順次取り入れてきた様々な活動の関係を整理し、2025 年ビジョンの達成に役立てるために、2019 年より TQM の強化に取り組んでいる。

中長期計画を核とする多職種連携と総合的マネジメントの実践、多様な改善活動の展開による改善カルチャーの浸透と業務プロセスの革新、標準化と情報システムの効果的活用、地域の医療関連施設との密接な連携など、特徴のある活動を展開している。

その結果、重篤患者の救急車受入率が向上し、新たな専門医療の導入に成功するとともに、インシデント数が減少し、退院支援件数が増加している。また、スキルを持った人材が育ち、職員の満足度が向上している。それらの総合的な効果として、入院患者数、紹介患者数が増加し、健全な経営を維持できている。

アポロタイヤ株式会社チェンナイ工場（インド） **Apollo Tyres Limited, Chennai Plant**

代表者名：ユニット ヘッド

シー トーマス マシュー氏

Mr. C Thomas Mathew (Unit Head)

所在地：B-25, SIPCOT, Industrial Growth Centre, Oragadam, Chennai,
602105 India（インド）

T E L：91-89397-65752

事業内容：自動車用タイヤの製造

売上高：約 559 億 7 千万ルピー（約 896 億円）

従業員数：4,461 名

[受賞理由]

同組織は、インド社会の自動車需要拡大を背景として、トラック、バス、商業車、自家用車のラジアルタイヤを製造し、供給するために、アポロタイヤ（株）が 2010 年にチェンナイに設立した当社の最大かつ最新の工場である。従業員数は 4,461 名、売上高は約 559.7 億ルピー（約 896 億円）である（2022 年 3 月）。

同組織は、品質 No.1 のタイヤを供給するという目的を達成するために、TQM が最高の科学的アプローチと考え、2012 年から経営のコアとして位置づけ、推進してきた。

同組織は、現場での日常管理と QC サークルによる徹底的な改善、TQM で用いられるツールの複合的利用による問題解決の推進、Four Student Model によるプロセス品質重視の改善活動を展開してきた。

その結果、リードタイムの短縮などによって生産性が向上し、クレームも減少し、同組織の売上高向上、新規顧客獲得、競争力強化、インド市場シェア 1 位の維持に貢献した。

Cataler (Wuxi) Automotive Environment Technology Co., Ltd.
科特拉(無錫)汽車環保科技有限公司

代表者名：岡崎 忠明 氏（総経理）

所在地：中華人民共和国江蘇省無錫市無錫 国家高新技术産業開発区 104-A

T E L：0086-510-8520-4885

事業内容：四輪用および二輪用排出ガス浄化触媒の製造と販売

売上高：68.6 億人民元（1,239 億円）

従業員数：200 名

[受賞理由]

同組織は、中国のモータリゼーションの到来、排出ガス規制の強化に伴い、キャタラーグループの海外拠点として中国江蘇省無錫市に 2002 年に設立された。四輪用および二輪用排出ガス浄化触媒の製造と販売を主に中国トヨタ向けに行っている。従業員数は 200 名（2022 年 1 月現在）、2021 年度の売上高は 68.6 億人民元（1,239 億円）である。

同組織は、人づくりを中核にした企業活動を行い、安全・品質・生産性の指標に関してグループ No.1 を堅持してきたが、将来にわたり良い状態を維持するために、持続的成長可能な経営基盤の構築を経営目標に掲げ、TQM 活動の強化に取り組んだ。この間、当たり前前を当たり前前にできる人財育成、収益改革に向けた全社的な原価低減活動の推進、スタッフ部門も巻き込んだプロセス管理などの特徴のある活動を展開している。

その結果、厳しい経営環境の中でも販売数量を堅持し、営業利益を高水準で維持している。また、市場クレーム・重大品質問題ゼロを継続し、現地スタッフ率、従業員定着率を向上させている。

2022年度(令和4年度)
日経品質管理文献賞 受賞者

デミング賞委員会は、本年10月4日開催のデミング賞委員会において
2022年度日経品質管理文献賞の受賞者を下記のとおり決定いたしました。

授賞式は、11月14日(月)16時40分から東京・大手町の経団連会館において
デミング賞授賞式とあわせて行われます。

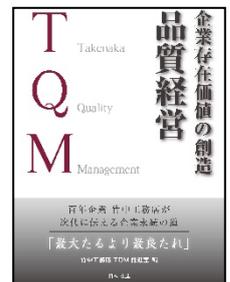
受賞文献 3件

「企業存在価値の創造 品質経営 -百年企業 竹中工務店が次代に伝える
企業永続の道 最大たるより最良たれ-」

(株)竹中工務店 TQM推進室 編

発行所：株式会社日科技連出版社

出版：2022年6月

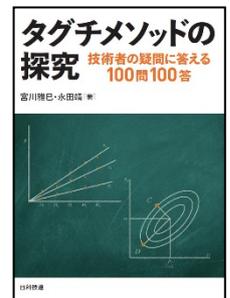


「タグチメソッドの探求 -技術者の疑問に答える 100問 100答-」

宮川 雅巳、永田 靖 共著

発行所：株式会社日科技連出版社

出版：2022年1月



「日常管理の基本 -トラブル・事故・不祥事の防止-」

中條 武志 著

発行所：株式会社日科技連出版社

出版：2021年12月



デミング賞・日経品質管理文献賞の説明資料

I. デミング賞とは

1. 「デミング賞」は、統計的品質管理の工業への応用において終戦後、たびたび指導のため来日された米国人故 W.E.デミング博士(1900～1993)の友情と業績を記念し、わが国の品質管理の一層の発展を図るため、一般財団法人日本科学技術連盟によって1951年(昭和26年)に設けられたものであり、今年で創設71年を迎えました。

また、「デミング賞大賞」は、一般財団法人日本科学技術連盟が、1969年(昭和44年)10月東京で開催した世界初の品質管理国際会議を記念し、その意義を永く将来にわたって維持高揚するとともに品質管理の一層の発展をはかるために創設されたものであります。

企業・組織を対象とする「デミング賞」「デミング賞大賞」は、応募した組織について審査が行われ、授賞を決定いたします。

デミング賞委員会の経費は、一般財団法人日本科学技術連盟によって負担されています。

2. デミング賞の種類

「デミング賞本賞」、「デミング賞普及・推進功労賞(海外)」、「デミング賞」、「デミング賞大賞」の4つがあります。

3. 授賞の対象

賞の種類	賞の概要	対象
(1) デミング賞本賞	1) 総合的品質管理(Total Quality Management、以下TQMという)の研究に関し優れた業績のあった者。 2) TQMの普及に関し優れた業績のあった者。	個人
(2) デミング賞 普及・推進功労賞 (海外)	TQMの普及・推進に関し、優れた業績のあった者。 ただし、候補者は、主たる活動が海外に限定される者に限られる。(原則として3～5年ごとに選考が行われる)	個人 (海外)
(3) デミング賞	経営理念、業種、業態、規模、経営環境にふさわしいTQMが効果的に実施されている応募組織に授与。 (年度賞)	企業・組織
(4) デミング賞大賞	デミング賞を受賞した組織のうち、受賞後3年以上を経過しており、受賞後もTQMにおいて優れた成果をあげた応募組織に授与。(年度賞)	企業・組織

II. 日経品質管理文献賞とは

日経品質管理文献賞は、「TQM」またはそれに利用される統計的手法等の研究に関する文献(数値表やソフトウェアをとまなう文献を含む)で、品質管理の進歩、発展に貢献すると認められる優秀なものを表彰するため、日本経済新聞社により、1954年に創設されました。この賞の審査はデミング賞委員会において行われ、デミング賞行事の一環として毎年賞の授与が行われています。

推薦または応募の資格

日経品質管理文献賞は、日本語で書かれた文献、または、日本を主たる活動の場としている著者の文献で、次に掲げる文献の作成者に授与されます。

- a) 「TQM」またはそれに利用される統計的手法等の研究に関する文献(数値表やソフトウェアをとまなう文献を含む)で、品質管理の進歩、発展に貢献すると認められるものを対象とします。
- b) 対象文献は、原則として、前年の7月1日から当年の6月30日までに公表されたものです。

デミング賞/デミング賞大賞の累積受賞者(組織)数

1. デミング賞本賞

[1951年(昭和26年)以降2022年(令和4年)までの受賞者数] 85名

2. デミング賞普及・推進功労賞(海外)

[2009年(平成21年)以降2022年(令和4年)までの受賞者数] 5名

3. デミング賞

[1951年(昭和26年)以降2022年(令和4年)までの受賞組織数] 延262組織

(a) デミング賞

39組織(うち海外23組織)

※2012年度の賞の名称変更以降の数

(b) デミング賞実施賞中小企業賞(1994年まで)38組織

(c) デミング賞実施賞事業部賞(1994年まで) 5社5事業部

※1995年からデミング賞実施賞中小企業賞およびデミング賞実施賞事業部賞という名称は廃止され、デミング賞実施賞に一本化されました。

(d) デミング賞事業所表彰(2009年まで) 16社20事業所(うち海外3社3事業所)

※2010年からデミング賞事業所表彰はデミング賞実施賞に一本化されました。

(e) デミング賞実施賞(2011年まで) 延160組織(うち海外35組織)

※2012年から「デミング賞実施賞」を「デミング賞」に名称変更しました。

4. デミング賞大賞

[1970年(昭和45年)以降2022年(令和4年)までの受賞組織数] 延32組織

(再度の受賞組織2組織、海外11組織を含む)

※2012年から「日本品質管理賞」を「デミング賞大賞」に名称変更しました。

5. 日経品質管理文献賞

[1954年(昭和29年)以降2022年(令和4年)までの受賞件数] 255文献